



1186
112



關疑抄第四

24



利12
1186



12
特 1186
若

いふれりや らいり らいり らいり らいり
なみ らいり らいり らいり らいり らいり
又 らいり らいり らいり らいり らいり
い らいり らいり らいり らいり

我神を極る満干よはぬまはし らいり
心が神を業と成る らいり らいり
世 らいり らいり らいり らいり
心面白教向 らいり らいり らいり
ふつ らいり らいり らいり らいり
そ らいり らいり らいり らいり
縁 らいり らいり らいり らいり

謹攝 らいり らいり らいり らいり
其神 らいり らいり らいり らいり
既 らいり らいり らいり らいり
年 らいり らいり らいり らいり
ま らいり らいり らいり らいり

らいり らいり らいり らいり らいり
らいり らいり らいり らいり らいり
らいり らいり らいり らいり らいり
らいり らいり らいり らいり らいり

乃りつ氏神まき白と勸誘や一氣なる有氏の
名をいかに行啓ありまき名順字を
くしそ行啓之也清行の業年(時)まき
能林そあるくくは後極宿と記しゆり
らくくちを他物諸ふれしゆ書(一)但湯蔵
院(白)知十一年まき受ふり(干)時二歳業年
ハ貞觀六年二月尾行かおふ(仁)まき受は
世の行啓乃り時也清司石書あり(中)開
二月上乃卯日土月中の子目ま(り)あり(文)使
乃清内仁壽元年神白祭の事(五)まき受
ハ教氏(宿)文(ら)り(亦)行(り)あり(と)人(と)乃

ろく路の行啓ま(か)あ(は)り(と)く(ま)き(一)
ス(ら)や(な)の(の)し(と)ま(ま)ふ(一)ま(ま)き
能代乃(ら)も(行)の(出)し(也)

長乃(ま)ま(優)なり(昇)也(東)文(三)や(ま)不(行)啓
有(神)ま(文)照(五)非(と)ま(ま)の(行)啓(の)事(行)り(お)
殿(の)ひ(と)思(出)ま(ま)ん(と)あり(と)ま(ま)の(事)ま(ま)
者(れ)た(う)人(の)は(時)業(通)き(一)事(と)お(知)り(し)
也(ま)や(と)云(心)能(代)の(の)也(人)とい(ん)た(也)
乃(ら)國(の)事(あり)ま(ま)是(ま)と(女)と(ま)ま(と)や(う)人(と)
い(ま)す(一)て(座)ふ(山)行(つ)ま(ま)ま(ま)の(行)啓(ま)ま
ハ(保)第(一)と(東)文(の)行(な)り(亦)ま(ま)ま(ら)り(ま)ま(ま)

一町中らふ故然にむすひや多し
 其のころは或れいふにせんらむとありしころは
 其のころは或れいふにせんらむとありしころは
 席此并に後まをれとて物や作らるる
 用心のめやこれ業来れ自記とんて
 中みまてうらむありしころは
 人々のあはれむるころは
 名順子之建之寺也常行貞觀六年正月十
 六日奉議八年十二月十六日在之將之工業奉貞
 觀七年三月名馬以天安率中御法事也

若後進善也

ひたりといふことなり
 なるぬれありし安祥寺に
 有原のほりゆきとて人々
 りまうん強ひてかといふ
 年二病をよはつとてま
 是のころは或れいふに
 動物云々常道に下なる

良相^{ヨシノアヲ}女^メ嘉^カ祥^{シヤウ}二年^ニ薨^シ天安二年^ニ二月^ニ官^シ卒^ス
 常行^{ツネユキ}西^ニ之^ノ条^ニ在^リ良相^ノ一^ノ男^ト山科^ノ之^ノ禅师^ト康^ノ親^ノ王^ト
 親王^ト也^{ナリ}勅^ス云^フ人^ノ康親^ト王^ト仁^ノ昭^ナ孝^ナ口^ニ示^シ彈^ト心^ト尹^ト也^{ナリ}
 号^ス山科^ノ実^ト貞^ト觀^ト元年^ニ丹^ノ守^ト入^リ道^ニ同^ク十四^年覺^ス
 四十二^物勅^物二^もや^りあり^の常^行貞^觀八年^ニ十二月^ニ
 月十六^日右^大將^ト三^十一^歳業^平貞^觀七年^ニ三月^ニ
 右^馬次^ト仁^ノ美^ト也^{ナリ}其^ノ弟^ト天安^二年^ニ也^{ナリ}
 少^シ連^ト年^ニ救^レ相^ト遠^ト也^{ナリ}仁^ノ美^ト善^ク後^ニ逃^レ善^ク也^{ナリ}
 後^ノ事^ト也^{ナリ}宇^治條^ノつ^まま^に後^ノ事^トあり^の七^七日^也
 仁^ノ美^トの^ノ後^ニ仁^ノ美^トの^ノ物^ト諸^ト不^レ遺^ス
 然^レハ^も後^ノ事^ト也^{ナリ}
此^ノ年^ニ救^レ相^ト遠^トハ^も多^ク加^ヘテ^も母^ト女^ト死^ス天安^二年^ニ也^{ナリ}
 常^行未^レ在^リ相^ト遠^ト也^{ナリ}之^ノの^ノや^もあり^のや^も天安^二年^ニ也^{ナリ}
 業^平右^馬次^ト不^レ以^テ前^ト也^{ナリ}ト^云フ^也
 天安^二年^ニ也^{ナリ}
 用^元ノ^ノ貞^觀元^年也^{ナリ}
 死^ス後^ノ事^ト也^{ナリ}
 常^行右^大將^ト三^十一^歳也^{ナリ}

子^モ人^ノ志^ノ家^ト也^{ナリ}等^ノ厚^ク有^リ大^ニ書^ス也^{ナリ}
 又^シ人^ノ康^親王^トと^シ禪^師と^シも^ノ也^{ナリ}其^ノ事^ト云^フ業^平也^{ナリ}
 然^レハ^も仁^ノ美^トの^ノ後^ニ仁^ノ美^トの^ノ物^ト諸^ト不^レ遺^ス
 た^テハ^も仁^ノ美^トの^ノ後^ニ仁^ノ美^トの^ノ物^ト諸^ト不^レ遺^ス
 子^ノ貞^觀十^三九^年也^{ナリ}其^ノ弟^ト右^大將^ト仁^ノ美^ト也^{ナリ}
 其^ノ弟^ト貞^觀八^年十二月^ニ也^{ナリ}業^平右^馬次^ト貞^觀七^年
 三月^ニ也^{ナリ}人^ノ康^親王^ト也^{ナリ}其^ノ弟^ト右^大將^ト仁^ノ美^ト也^{ナリ}
覺^ス也^{ナリ}仁^ノ美^トの^ノ後^ニ仁^ノ美^トの^ノ物^ト諸^ト不^レ遺^ス
 女^ト所^ノ身^ト貞^觀十^三年^ニ九月^ニ也^{ナリ}春^ノ也^{ナリ}仁^ノ美^トの^ノ後^ニ仁^ノ美^トの^ノ物^ト諸^ト不^レ遺^ス



常^行貞^觀八年^ニ十月^ニ十四^日卒^ス也^{ナリ}
 其^ノ弟^ト右^大將^ト仁^ノ美^ト也^{ナリ}

申貞親八年之業平石馬以同七年也三つ
は幕の率をひ申貞親八年以後の事ありしが
わらうらのひきまふくはむらひにむらひ備もせむ
繪ふふきいたいややせくたえらひむらひ文
のふくまはなぬやまきまに業平おほひもせむ
海ふらふれふりぬぬふらふらむらひ
いそりふらむらむらむらむらむらむらむら
ふらふらむらむらむらむらむらむらむらむら
ころむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

右の禪師の巻之

右の禪師の巻之
席より寝る事
議又計

のろおろそたむらむらむらむらむらむらむら
画像監就才一云思慮と書さう百業まの方便の
二字とませさう思慮う簡さうのあかた
なぬや直の字はあらうむらむらむらむらむら
とく文法をれらむらむらむらむらむらむらむら
ふやふらむらむらむらむらむらむらむらむら
小清和天皇西三条右大臣良相の百花香人行幸れ
町乃事之百花香とひまむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
三日行幸在左后良相百花香には行幸れたためり
紀伊國乃子里の漢の石とれらむらむらむらむら

百花香の旧記
三巻の朱卷
十六唐音

おそれる人のはりぬれぬふとく
ありてはこれとて強御の事泉木との
まを給はこれとぬれぬとあることあり
況し烟霞成痼疾泉石入膏肓首三事と
引給ふ是も泉木と好古事也
いふもせぬてふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
よん人より早もせ給ふみこれ右馬次あり
人のとあるのとていふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
るもいふもまの強御とて
馬次助云右馬次依此監右馬次お付る也

右馬寮之左大将右馬寮右大将是れは
ありてはこれとて強御の事泉木との
まを給はこれとぬれぬとあることあり
況し烟霞成痼疾泉石入膏肓首三事と
引給ふ是も泉木と好古事也
いふもせぬてふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
よん人より早もせ給ふみこれ右馬次あり
人のとあるのとていふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
るもいふもまの強御とて

昔より上文字中ニ未草名の中ホリ給コトクニ書スルヲ云 奪点

是れは
ありてはこれとて強御の事泉木との
まを給はこれとぬれぬとあることあり
況し烟霞成痼疾泉石入膏肓首三事と
引給ふ是も泉木と好古事也
いふもせぬてふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
よん人より早もせ給ふみこれ右馬次あり
人のとあるのとていふもぬらうりや
るもいふもまの強御とて
るもいふもまの強御とて

乃てぬまのりかへし備へしあはれし
きりくんとんかかひのりうりわたり
覺しよはけ思ふんあひしと又かぬ情の
程かたき奉らんたはれる事れかき
見せらるらんうりやとあり世流あり
何よとありおんしとちぬくあぬ事いぬ
そや山道く思ふとあしんとおのりおれ
山や若くあし美しうりたれおのり
有り華華れ争あひれはうりうりか
おれらうり争しとてあきつるおれ
似合世公面白うみおれ

やあ人ありのまは

△
ひーららあふみにしおれたまうりか
ゆる人争うりあひらあひらうり
おまれのらあふ

貞親聖、貞親十四年、
慶長十三年、慶

氏ウチの中お親おれ生れ給あり在常行平イナトヨシの女
版カキお貞親おれ生れ給あり
王母オウボの業業れ姫のあしうり
貞親親王のゆかりの行平や行平の成
たつおまれの事業平のけ貞親親王の八歳
あしうり陵シラカと舞うりか
おまれのらあふ

後出ノ事ニ
云々
其の白根子まはし
としたりん

澁湘洞庭秋漢扁舟海去故人道是丹書
海の浦清船の揺り所を昔はいふと鶴と書
先づいふと丸く老由と煙漁所 塩毫の
浦よりいふと丸く海りぬ 里つとりのり
まはれ海りぬと杜のりぬと海りぬと
多ふんらふもたみらぬといふと多ふんら
を好りぬといふと海りぬと我亦いふと
の甲しぬと海りぬと海りぬと海りぬと
あんののちぬと海りぬと海りぬと海りぬと
三に海りぬと海りぬと海りぬと

は朝上と海りぬと海りぬと海りぬと
業平小照子離人とも書はぬと海りぬと
おは海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
ひしとれと海りぬと海りぬと海りぬと
えのめと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
毎らぬと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
その時みと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
なりぬと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
惟まのりぬと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと
都子ぬ尾書原号小野美少野りぬと海りぬと
らぬと海りぬと海りぬと海りぬと海りぬと

しにせりちふり久一の命を

是の業平れあまのり花の若きからし思ひ

よりのありあはれし思ひたれし思ひと云ふ

極くこの花を人あはれし思ひたれし思ひと云ふ

國名も表れし思ひたれし思ひと云ふ

やうくあまのりあはれし思ひたれし思ひと云ふ

中もあまのりあはれし思ひたれし思ひと云ふ

山を渡りし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

と云ふあまのりあはれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

はらりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのり
交野

みよふ在馬取かゆかこふふ業平歌と云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

られぬあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

はらりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

みよふ在馬取かゆかこふふ業平歌と云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのりあはれし思ひたれし思ひたれし思ひと云ふ

あまのり
交野
あまのり
交野

唯喬 梅花らしんりりの人びとすよとある人

唯喬 白雲の級とたの川幸のよ

とものよめめせうし花を重くすよめめ

なりし説法捕朝の舟通の事しとの

達者ゆりしわしと定宿と河水久澄と云

とましく會の定宿ふらふとこれと毒酒のそ

年包とる定宿れらりしとこれと世あり

ぬ水申ありと年會とらぬ又字ととらぬ

とこれと又手前公り賞獲的莫宴食

られと書しとまきとゆりしとこれと

人し見きしと音ふると云流思とら道

少子れ業し 帆終しとんく 興と

あるとて三并しとらみとらあり

かしとて一とらみとらあり

家と人とのしとておあり

七とらむしはしとて家とておあり

人との家とのしとておあり

かつとて文ありとておあり

語とてありとておあり

ほとておありとておあり

かたて文ありとておあり

あつたてのちんねははるのくさ
ふつふつとくさくさのうらみ

春一第十七あつたてのちんねははるのくさ
とちたつとちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ

あつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ

おつたてのちんねははるのくさ

後橋のう上野春雄とて他物船のあつたての
瑞にまくとつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ

おつたてのちんねははるのくさ

おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ

おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ
おつたてのちんねははるのくさ

らんそはつらひつらむららふあはれ成流ふん
なしく男子と云一向イフウ悪くアツク共トモ西ニ海ノと云
いふぬ馬ウマの頭カビんノあつらふと云ト西ニ院ノ何ノやん
常トクらうト我ガよク我ガ院ノ社ノあハ不レ審シうトふトや
そ後ノ院ノそノ西ノ出ノ家ノありト乃レ様ノ西ノ名ノ社ト云ク
めニつらクあハ久クなリとス。

まニくニつラあハむシじニつラふシらハしテあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト

とあハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト

来

魚イサまニふシてシ難クあハりトあハりトあハりトあハりト

あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
あハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト

三拜詩賞甚

二月ニ南ノ二十ニ日ノ同ノ光ノ別ノ我ガ若ク今ノ共ト君ト今ノ更ニ
不レ須ク眠ル未ダ到ル曉ノ鐘ノ是レ甚クとスあハりトあハりト

と行キそノ他ノ事ト業ノ業ノれハいハりトあハりトあハりト
と行キそノ他ノ事ト業ノ業ノれハいハりトあハりトあハりト

かくニつラあハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
かくニつラあハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト

かくニつラあハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト
かくニつラあハりトあハりトあハりトあハりトあハりトあハりト

5

四ノ一と云う〜
惟ま親山家白

十四年七月出家十九年三月二十日覺惟ま

又徳第一師子シヨリシの...

良房唯言母紀名虎カ娘也...

古今他者三條町

云女是...

し月...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

大内惟方日記
小野島

みじろく... 流あり... 夢... 新... 惟...

小野島

... 惟... 夢... 惟... 惟...

5

動物小は并と書入てとつし内建を記す
くゆのりまゝに式されしもの思ひくのみ
並行と物語の傳書れり家或書集は并あり
るれ事なきゆへに併せしる

△奇し男をくら書あやしあててゆん文を
そのとありとていふ事なき事ありゆん子
文はくし書しきつとて書れとせんくえ
そちのいふ事なき事ありとて書しき
業平のそこのからゆんやけ書集は自
と記しゆり力に賤あて母多ん文をゆん
皇國親王の事ゆん子京よとてはゆん

朝家^{ラカ}奉^カ出^カの^カ業平^カの^カ兄弟^カ五人^カの^カ阿保^カ
親^カ子^カの^カ事^カは^カ作^カ皇^カ國^カ親^カ王^カの^カ事^カは^カ業^カ
平^カ一^カ子^カの^カ事^カは^カ速^カ也^カ也^カ
ゆん事とてゆん事とて

是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事
是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事
是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事
是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事
是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事
是れ事といふ事ゆん事ゆん事ゆん事

又先
又先
又先

いふふのめぬ程よいて見まへゆ
かり子いさう打るさしてさあゆ

勅云 伊豆の報を自^{チホウ}記三年九月^{コラス}薨

世平よりぬ別まされなくもぬ

子代といひ教人かの子れつらん

我一もれ人とする字の望し世國へもえ云く死

とるもさ事れあしめあさう一如をまれ子より

まのたぬふらう人といはらして我則る^{モク}用

連の我母のるよ孟^ウ蘭^{ラウ}孟^{ホシ}と行^{サヤク}ま^ハて是同念

△^サうう一男をらうつういふもほろまうりうるまは

うらわらうたぢうとからむ月子のあははまらから

おがやまれ交はくあも積ん常よりえまうてとてい

まてい^まま^まあ^んう^ふを^まま^んあ^まあ^あの^あの^あ

昔つうもつう一人くならせんがたあまうてま

りのめいからくむほあれらうとがけいそあみ

あひから雷にほとがうああうてむのり

やまごみか人あひく雷よりあうていあうて

とあぬと影もく并をさうり

見現しうるも業平が事と云不用惟まのうてま

一まはあうは人うらうや二れたる業平あ

れらうら年ほあうてあまうてあまうてあ

後人あり^ゴ強^シ神^{カミ}の^ノ所^トは^シ清^{スミ}く^ク惟^タま^ハれ^ルは^シり^ト也

世平のわりの
人の子のため
七り一結傷

たより海島... 記す

な... 記す

雷... 記す

思ふ... 記す

おふん...

こより...

おふん...

ひ... 記す

おふん...

おふん...

おふん...

今まんりしとまて忍人を世にあらし
とらう山ましくしはるるをまて

若年此昔の極りしとらうしをあらし

こして年れ極めまてしとらうし失念する

我はまてぬと云ふ也

そし極めまてしとらうしをあらし

うらみ出たり也

おらるれ極めまてしとらうしをあらし

殿ニ東家多むの回ある

△甘りし男侍は國じりしとらうしをあらし

とらうしをあらし

うらみの郡と云ふは 宛原郡

昔は此里業年の増えある人しりし

とらうしと云ふは

おらるれ極めまてしとらうしをあらし

此字のとらうしをあらし

此字と云ふは

十七雜字の中此業年此字と云ふは

平此極めまてしとらうしをあらし

りしと云ふは

昔今と云ふは

此と云ふは

わくま

石川 幸三
牛志賀 後前
糟田 那
カヌマ

万葉集 石川 幸三
志賀 幸三
そのめくらしき見ゆふありこれ國郡在
取寄おぼはしき事なりと云ふ
さあらしめぬあまのふりし事なれば
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり

こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり

石川 幸三
牛志賀 後前
糟田 那
カヌマ

とあめぬんえうに里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり
こふもたふしこれ里とらりりあつぬあやの
あしとらひ事なり

定壽 ^{此は清和天皇の御時} ^{イハレ月并ナリ} かほこの山に... 水...

この山に... 山...

兼年中... 業平... 山...

近湯府... 山...

近湯府... 山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

海からたきいりておこしうらむ

あさしら命れまふあつとてまよひおと

五葉氏れ時ふあつとておこしうらむ

田舎のうらひおとておこしうらむ

伊下非主命不越儀ありあまをほりお

まあつらうらむとておこしうらむ

つあつとておこしうらむ

下白世不用まぬおこしうらむ

たまといふきたうらむ

まねとまねおこしうらむ

白世切らたまといふおこしうらむ

備區赤 伊勢海
つうたい
伊勢の海は備區赤

あつとておこしうらむ

業平あり

ぬきみらる人おこしうらむ

まあつらうらむ

はの氷精れまといふおこしうらむ

とれぬきまといふおこしうらむ

みらる人おこしうらむ

同のしおくらり是れ我神ありあまをほりお

りと早下せうた同ありあまをほりお

とらえまといふおこしうらむ

とらえまといふおこしうらむ

け弁にのそくおきりりら

の人の人けぬてもあしあふさくそく業

平れ自死と見くらはけ弁ふあしやま

け弁しう人こす事あへくすゆきせ

いらそそ弁とともさそそそそそ

のうらあみらそあてあけさありら

家のまらぬ日くれぬやあはれそあ

あまれいそそそ火おけいそあ

けこらむ

布衣の遊少らあああ

あああああああああああああ

と酒の西東場へさうた男、あ

水場へさうた男、あ

公補補仕、まはあ、あ

昔ヨリ官位、あ、あ

人、名帳、あ、あ

化、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

家、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

そ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

徐、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

う、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

え、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

我、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

晴、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

たく、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あれをやりあつた多敷橋よりつとむく

あつた人なまにかた死んあり

橋たさふおのこにわめ

あれをのこにわめ

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

あつた人なまにかた死んあり

後橋ニ又ト入

或は
イラン
キラン
十
る

て事なり乃ひ又ク書きて成りたる思ふ
今やわすしして可なりと云ふは白日なり
魚ク書きて人知れぬ事ありと云ふは
や右の調ひはこれに似たりと云ふは
こころを別くわする事ありと云ふは
△ 身にしるしに似たりと云ふは
たしえ事なりと云ふは

せしことと云ふ物ありと云ふ事あり
かへりたるありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり

古今古
漢人

△ 今がスミの母とたるつと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり

古今古
漢人

△ 今がスミの母とたるつと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり
いふ事ありと云ふ事あり

これら... 母... 随分

かきし... たりき...

減く... 天福...

天福乃... 家...

年等...

平等... 先...

拾遺草...

事... ち...

ち... 事...

事... 今...

今... 今...

た...

大永三年二月廿四日

菅本四守





